

🌀 ICOM-CC オフサイトミーティングを開催して

9月1日から7日にかけて、第25回ICOM(国際博物館会議)大会が、「文化をつなぐミュージアム―伝統を未来へ―」をテーマに、国立京都国際会館をメイン会場として開催されました。ICOMは1946年に設立され、現在138の国と地域を代表する会員から構成される巨大な組織です。その中に、テーマを絞った委員会や地域連盟、ワーキンググループ等が多数存在しますが、ICOM-CC(保存国際委員会)も、こういった組織のひとつです。

会議期間中の9月5日、ICOM-CCのオフサイトミーティングを奈文研で開催しました。奈文研が選ばれたのは、東日本大震災後の被災文化財に対する活動の実績が知られていたためで、当日は震災時の文化財保護に関心を持つ46名の専門家を、洋の東西を問わず文字通り世界各地から迎えての開催となりました。

半日間のオフサイトミーティングは、松村所長の挨拶に始まり、庄田による奈文研の組織や活動の紹介、中島アソシエイトフェローによる被災文書のレスキュー事業に関する説明の後、都城発掘調査部の木器・木簡、土器、瓦の諸整理室、埋蔵文化財センターの環境考古学、年輪年代学、遺跡・調査技術の各研究室のバックヤードツアーを、3つのグループに分かれておこなわれました。参加者からは、レスキュー対応に使われた真空凍結乾燥機だけでなく、発掘現場から運ばれてきた土壌の洗浄や、微細遺物の選別作業等、日々おこなわれている細かで地道な作業に接し、驚嘆と称賛の声が多く聞かれました。

(企画調整部 庄田 慎矢)



整理室見学の様子